

7月に西日本で豪雨災害が発生し、岡山・広島・愛媛などを中心に深刻な被害が出た。暑さの中、避難生活で大変な様子がテレビで報じられた。

災害の後、梅雨が明け、猛烈な暑さがやってきた。被災地では被災と猛暑という2つの困難に立ち向かわねばならない。災害から逃れた人々が、避難生活で体調を崩さないよう、生活が改善されることを望みたい。

この報道を見ていて心配になったことがある。それは南海トラフ地震等の地震・津波対策である。南海トラフ地震のシミュレーションでは、高い津波がやってくることが予想されている。津波対策には早くしっかりと高い建物や山に逃げるのが必須とされ、近くにそれがないところには避難タワーなどが建設されてきた。県下には避難タワーが所々建設されている。

避難タワーは確かに命を守る貴重な場所である。しかし、炎天下、あるいは雨天時、寒い時期に、避難者の身を安全に守っていきけるであろうか？津波が低く、すぐ収まってくれればよいが、波は何回も押し寄せる可能性がある。想定では10時間ほど避難場所に滞在する必要を説いている。穏やかな日とであれば問題がないかもしれない。しかし、荒れた、厳

被災者の命とプライバシー

しい天候の場合、避難タワーや様々な避難所は、乳幼児や高齢者が長時間過ごすことができる場所となっているであろうか？

津波の避難訓練で30分ほど屋上に避難したことがある。晴れて気温の高い6月頃であり、熱中症にかかる人が出た。暑い時期に被災すると避難者の熱中症対策は重大な問題になると考えられる。また、津波のため、何時間も待機する場合には、トイレも不可欠となる。多様性を配慮した準備がほしい。乳児には人目を気にせず授乳できる環境やミルクが必要となる。避難所は命とプライバシーを守る場所であってほしい。

避難時にはなにも持たず逃げる必要があるであり、実際、避難者はほとんど何も持てないだろう。災害は氣候を問わずやってくる。津波、地震から避難した被災者が避難生活の中で命を失ったり体調を崩すことがないよう、季節や氣候の多様性、避難者の人権に配慮し、長時間の避難に耐えられる避難所や備蓄の準備が必要であると痛感する。費用等様々な課題が多いと思われるが、工夫しながら着実に進めてほしいと切望する。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569